

報第7号

令和4年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について

令和4年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について、神奈川県教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により事務を臨時に代理し、次のとおり被表彰者を決定しましたので、同規則第2条第3項及び教育委員会の指示事項の1の(3)の規定に基づき報告します。

令和4年10月25日提出

神奈川県教育委員会  
教育長 花 田 忠 雄

## 令和4年度神奈川県優秀授業実践教員表彰被表彰者一覧

第1部門 20名（小学校7名、中学校2名、高等学校10名、特別支援学校1名）

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	逗子市立久木小学校	オハラ 照恵 大原 照恵	教諭	特別支援学級	特別支援学級の授業において、児童一人ひとりを意識した適切な支援により、支援級児童が交流級児童と主体的に関わることのできる授業実践を行っている。
2	綾瀬市立寺尾小学校	カキ 雅規 田垣 雅規	総括教諭	全教科	算数の授業において、児童が悩んだり疑問を持ったりする場面を意図的に設けるなどして、児童の思考を深めることのできる授業実践を行っている。
3	大和市立渋谷小学校	ツナキ 洋輔 津崎 洋輔	教諭	全教科	算数の授業において、児童のつぶやきに寄り添い、積極的に声掛けをするなど、児童が自分の意見を持つことや学ぶことに価値づけをした授業実践を行っている。
4	伊勢原市立中沢中学校	オザワ 和美 小澤 和美	総括教諭	数学	数学の授業において、教材の提示方法の工夫により、学習内容を生活の中で利用する場面を、具体的に考えることのできる授業実践を行っている。
5	小田原市立富士見小学校	ナガサワ 孝江 長澤 孝江	教諭	全教科	国語の授業において、児童が自分の考えと他の児童の考えを自然と比較する場を設定するなど、「つながり」を意識した授業実践を行っている。
6	南足柄市立岡本小学校	コミヤ 創太 小宮 創太	教諭	全教科	社会の授業において、ICTコンテンツ等の教具の工夫・充実に努め、それらを児童が活用しながら主体的に学習に取り組むことのできる授業実践を行っている。
7	大井町立湘光中学校	シゲタ 優 重田 優	教諭	社会	社会の授業において、学習活動や教材の工夫により、生徒が主体的に学習に取り組むとともに、他の生徒の考えを聞き、自分の考えを深めることのできる授業実践を行っている。
8	横須賀市立森崎小学校	カワノ 琴絵 河野 琴絵	教諭	特別支援学級	特別支援学級の授業において、児童一人ひとりの特性に合わせて適切な支援をするとともに、児童同士が「つながり」を持つことを意識した授業実践を行っている。
9	横須賀市立浦賀小学校	ムライ 宏行 村井 宏行	教諭	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の授業において、児童の主体的な活動を中心に授業を展開し、全員が意欲的に取り組むことのできる授業実践を行っている。
10	県立神奈川工業高等学校	イヅエ 晃 入江 晃	総括教諭	数学	数学の授業において、生徒の実態に合わせて教材を工夫したり、内容理解につながる活動を取り入れたりするなど、生徒一人ひとりに丁寧寄り添った授業実践を行っている。

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立新羽高等学校	カタヤマ ユウタ 片山 裕太	教諭	保健体育	保健体育の授業において、運動やスポーツの多様な楽しみ方を実践できるよう、共生の視点を重視した、課題解決型の授業実践を行っている。
12	県立川和高等学校	フクダ リナ 福田 理奈	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒が英語を使う活動を多く設けることで、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力等の育成につながるような授業実践を行っている。
13	県立横浜修悠館高等学校	カウ サキ 加藤 早紀	教諭	家庭	家庭科の授業において、生徒が前向きにスクーリングできるよう、生徒の実態に合わせて、教室内の環境や教材等の工夫・配慮をした授業実践を行っている。
14	県立多摩高等学校	タチカワ キミコ 立川 公子	教諭	芸術 (美術)	美術の授業において、視覚的な参考資料の充実や生徒理解に基づいた指導の工夫を行うことで、生徒が主体的に自分らしい表現方法を探求することのできる授業実践を行っている。
15	県立麻生総合高等学校	カミジマ アヤコ 上島 礼子	教諭	国語	国語の授業において、ICTを効果的に活用した協働学習を実践することで、生徒が多様な価値観や考え方に触れる機会を十分に設けた授業実践を行っている。
16	県立藤沢総合高等学校	アリアケ ミユキ 有明 みゆき	教諭	数学	数学の授業において、常に見通しを持ち、最終段階における具体的なイメージづくりをすることで、生徒個別の理解を深めることのできる授業実践を行っている。
17	県立麻溝台高等学校	シカタ ダイゴ 志方 大悟	教諭	国語	国語の授業において、創作や作問、協働学習を通して、生徒が言葉に着目して表現を吟味したり、自身の考えを相手に伝えたりするなど、主体的に学習に取り組む態度を養う授業実践を行っている。
18	県立大和高等学校	ホンゴウ マユミ 本郷 真由美	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、単元のトピックについて生徒が考え、自分の意見を表現するとともに、他の生徒と意見を共有する活動を多く設けた授業実践を行っている。
19	県立座間高等学校	オオネ ショウゴ 大曾根 彰吾	総括教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、話すこと（やり取り）をゴールタスクに設定し、そのタスクにつながる言語活動を取り入れるなど、4技能5領域の言語活動を結合した授業実践を行っている。
20	県立藤沢養護学校	オガワ マサミ 小川 真佐美	教諭	特別支援	体育の授業において、児童一人ひとりの技能や体力に合わせて、支援の仕方を工夫することで、児童が達成感や満足感を得ることのできる授業実践を行っている。

## 第2部門 21名（小学校3名、中学校1名、高等学校11名、特別支援学校6名）

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	厚木市立相川中学校	村上 賢人	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、単元を通しての学びを意識し、対話的な活動を通して、生徒同士が教え合いや学び合いをすることのできる授業実践を行っている。
2	海老名市立杉本小学校	中山 裕紀	教諭	全教科	英語の授業において、題材やスモールトークの内容を日々探し、授業に取り入れることで、英語でのコミュニケーションを身近なものと感じ、必然性を感じることで授業実践を行っている。
3	二宮町立一色小学校	齋藤 駿介	教諭	道徳	道徳の授業において、児童の発言に寄り添うことで、児童の考えを深めるとともに、児童一人ひとりが互いの意見を尊重する態度を養う授業実践を行っている。
4	山北町立川村小学校	芦川 真由美	栄養教諭	食に関する 指導	食に関する指導において、給食を例として献立を立てる活動を設定することで、「バランスのよい献立」について、具体的なイメージにつなげることで授業実践を行っている。
5	県立横浜翠嵐高等学校	臼井 浩人	教諭	国語	国語の授業において、ペアワークを繰り返して意見の共有を重ねるなど、生徒の活動の場を多く設けることで、理解の深化・定着をすることのできる授業実践を行っている。
6	県立希望ヶ丘高等学校	大塚 聖	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICTを効果的に活用し、生徒が題材に関連する動画を視聴することで、論理の展開の方法や構成の在り方を学べるように工夫した授業実践を行っている。
7	県立釜利谷高等学校	竹林 滉平	教諭	数学	数学の授業において、個人で考える時間と、他の生徒と考えを共有する時間をバランスよく設定し、生徒が主体的かつ協働的に学べるように工夫した授業実践を行っている。
8	県立柏陽高等学校	近江 一太	教諭	数学	数学の授業において、生徒同士の対話や確認、考察の場面を多く設定することで、主体的・対話的で深い学びを実現させた授業実践を行っている。
9	県立柏陽高等学校	須賀 脩太郎	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、ICTを活用し、既習の知識を活用して生徒に表現させる場面を設定するなど、思考力・判断力・表現力等を育成する授業実践を行っている。
10	県立瀬谷高等学校	齋藤 嘉美	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒が自身のペースで繰り返し活用できる動画を作成するとともに、生徒が英語を使う場面を多く取り入れた授業実践を行っている。

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立川崎高等学校	ホンダ ショウヤ 本田 尚弥	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒が積極的に取り組めるような活動の工夫や、生徒の実態に合わせた適切な指導・支援により、生徒が達成感を味わえるような授業実践を行っている。
12	県立向の岡工業高等学校	イワタ コウキ 岩田 訓幸	教諭	総合 (産業社会 と人間)	総合の授業において、生徒一人ひとりの質問や発言を大切に、丁寧に対話を行うことで、生徒が主体的に考える態度を育む授業実践を行っている。
13	県立平塚工科高等学校	フクダ ハルト 福田 晴都	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、リテリング活動を効果的に取り入れるなど、単元目標の実現に向けて、授業構成や指導方法を工夫した授業実践を行っている。
14	県立鎌倉高等学校	フタナベ ツバサ 渡邊 翼	教諭	数学	数学の授業において、生徒の疑問を想定した授業準備をするとともに、随所に振り返りや根拠の確認を入れることで、生徒が理解を深めることのできる授業実践を行っている。
15	県立相原高等学校	イカ マサヒト 一花 幹人	教諭	数学	数学の授業において、ICTを活用した丁寧な説明と机間指導により、生徒が基礎的な知識、技能を習得・活用し、思考力・判断力・表現力を高めることのできる授業実践を行っている。
16	県立平塚養護学校	ミサキ ミサト 三崎 実里	教諭	特別支援	教科等を合わせた授業（音楽、自立活動、外国語）において、丁寧な授業準備や肯定的な声掛けをすることにより、生徒が達成感や有用感を得ることのできる授業実践を行っている。
17	県立平塚養護学校	ミヤイ リョウ 宮井 亮	教諭	特別支援	社会の授業において、導入の工夫や、視覚的な教材の提示により、生徒同士が互いの発言を聞き合い、期待感を持って活動に取り組むことのできる授業実践を行っている。
18	県立金沢養護学校	イノウチ ミサト 石内 弥里	教諭	特別支援	国語、算数（自立活動）の授業において、視覚や聴覚に働きかける教具を使用することで、児童が興味を持ち、自ら学習に取り組む態度を育成する授業実践を行っている。
19	県立相模原中央支援学校	スギサカ ケエ 杉坂 紀恵	教諭	特別支援	音楽の授業において、児童一人ひとりの実態に応じた支援をするとともに、穏やかな言葉かけや教材、環境設定の工夫により、児童が主体的に学習に参加することのできる授業実践を行っている。
20	県立相模原中央支援学校	フタナベ ユウスケ 渡辺 祐介	教諭	特別支援	教科等を合わせた授業（生活科、自立活動）において、児童の表出を促すため、適切な言葉かけや支援をするとともに、様々な感覚を体験できるように、教材・教具を工夫した授業実践を行っている。

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
21	県立えびな支援学校	松元 大樹	教諭	特別支援	音楽の授業において、題材設定を工夫するとともに、生徒が楽器に触れる機会を作るなどして、生徒が主体的に学習に参加することのできる授業実践を行っている。

## 令和4年度神奈川県優秀授業実践教員表彰 制度の概要及び審査経過

### 1 制度の概要

#### (1) 趣旨

教員の人材育成施策の一環として、学校教育における授業実践に優れ、教員の模範として推奨すべき者を表彰し、顕彰するとともに、教員全般の意欲及び資質能力の向上に資する。

#### (2) 導入年度

平成19年度

#### (3) 対象者

県立学校及び市町村立学校（横浜市立、川崎市立、相模原市立の学校を除く）の総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭及び常勤講師

#### (4) 表彰候補者の基準

優れた授業の実践が顕著な者（教科指導、特別支援教育に関する指導、保健に関する指導、食に関する指導等）

#### (5) 部門の内容（表彰する年度の4月1日時点）

第1部門：総括教諭又は教職経験10年以上かつ35歳以上である者

第2部門：教職経験10年未満又は35歳未満である総括教諭ではない者

### 2 審査経過

- ・ 4月 : 市町村教育委員会及び県立学校長に対し推薦を依頼
- ・ 5月 : 県教育委員会に推薦書を提出
- ・ 6～8月 : 各所管機関において、表彰候補者に対する授業観察及び予備審査を実施
  - ・ 市町村立学校 : 各教育事務所、横須賀市教育委員会
  - ・ 県立学校 : 高校教育課、保健体育課、特別支援教育課
- ・ 8月 : 審査会の実施  
審査会（座長：教育局長）の意見具申をもとに教育長が被表彰者を決定

### 3 被表彰者数

表彰年度 部門 校種	平成30年度		令和元年度		令和3年度		令和4年度	
	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門
小学校	3	4	4	5	3	3	7	3
中学校	4	5	5	2	4	4	2	1
高等学校	7	10	8	13	11	18	10	11
中等教育学校	0	0	1	1	0	0	0	0
特別支援学校	1	5	5	5	1	3	1	6
合計	15	24	23	26	19	28	20	21

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、休止とした。

※ 令和4年度被表彰者の年齢等内訳（令和4年4月1日現在）

年齢構成	20代	30代	40代	50代	合計
第1部門 平均年齢：40歳 平均教職経験年数：16年	0	13	5	2	20
第2部門 平均年齢：31歳 平均教職経験年数：6年	8	13	0	0	21
合計	8	26	5	2	41

#### 4 被表彰者の活用

##### (1) 校内や校外の教員に対する積極的な授業の公開（令和3年度被表彰者の実績）

被表彰者に対し、各学校の校内で決まった期間に授業を見合う機会や、初任者研修の他校訪問などの機会を積極的に活用し、1年以内に授業公開を1回以上行うことを義務付けている。なお、令和4年度における授業公開については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から任意での実施とした。

##### ア 授業の公開の実績（令和4年10月14日時点）

##### (7) 校内向けまたは校外向けに行う授業の公開

	校内向け公開	他校向け公開	全ての授業の公開
実施総回数	208回	57回	265回
指導案を作成する	53回	19回	72回
指導案を作成しない	155回	38回	193回
参観総人数	820人 参観	385人 参観	1,205人 参観

##### (4) 被表彰者一人平均の実施回数及び1回のあたりの平均参観人数

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	全校種合計
一人平均回数	15.7回	11.4回	4.4回	6.0回	6.6回
1回平均人数	1.5人	5.3人	5.0人	5.7人	4.5人

##### イ 主な活用の結果、感想等

- ・ 若手教員だけでなく、ベテラン教員も積極的に授業を参観し、自らの授業実践につなげていくようになった。
- ・ 教科の垣根を越えて、日常的に授業を参観したり、授業の手法等について、被表彰者に質問したり話し合ったりする教員が増えた。
- ・ 授業を参観した教員から、ICT機器の導入や様々な技法について、自身の授業改善につなげていきたいという声が多く上がるなど、ICT活用への意識が高まった。



## (2) 教員研修等における講師に係る実績（令和4年度）

総合教育センター等が実施する研修等に、毎年、一定の被表彰者の活用を義務付けている。

### ア 基本研修における講師（4名）

- ・ 内 容 模範授業、講義、協議、演習
- ・ 受講者 69名（国語）、44名（数学）、7名（家庭）、123名（特別支援）

### イ フレッシュティーチャーズキャンプ（新規採用予定者研修）における講師（1名）

- ・ 内 容 実践報告
- ・ 受講者 ※令和5年2月25日実施予定のため、現時点で受講者数は未定

## 5 今後の予定

- ・ 11月8日（火） 表彰式 神奈川県庁本庁舎3階 大会議場 16時15分～17時00分
- ※ 新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、開催方法や内容を変更する可能性がある。